



第114号

2013/6

岡山市コミュニティサイクル導入

5月25日、岡山市が今夏からコミュニティサイクルと呼ばれる有料レンタサイクルを開始することを発表した。今まで3回、岡山市中心市街地で行われた社会実験の結果を受けて、今回正式に導入されるようだ。今回のかわら版では今までの社会実験の結果を見ながら、今回導入されるレンタサイクルについて考えてみる。

第1回目の社会実験

平成22年3月13日から同5月16日にかけて計65日間行われた。JR岡山駅前や後樂園など7カ所に自転車の貸し借りができるステーションを設置した。

利用時間は午前9時から午後6時。利用料金は無料と比較的使いやすいように見えたが、自転車は借りた場所に返却する必要があるなど、欧米で実際に行われているレンタサイクル制度にくらべると使い勝手が非常に悪かった。また、利用するためには申込書に記入する必要があるなど、「まず、使ってみよう」という最初のステップが非常に高かった。

用意された自転車100台。放置自転車を再整備したリサイクル自転車で、放置自転車の処分手段としては非常に有効だったようだ。

第2回目の社会実験

平成22年10月22日から同11月30日にかけて計40日間行われた。基本的に第1回目の実験を踏襲しているが、自転車の返却場所は自由となり、JR岡山駅前や後樂園で返すといったことが行えるようになった。

申込書に記入する必要があるということを除けば、岡山に来た観光客が、中心市街地の観光名所を回遊するのに非常に便利な移動手段になるのではないかと期待されたのだが…。

第3回目の社会実験

平成23年9月15日から平成24年3月15日にかけて計182日、約半年にかけて行われた。JR岡山駅などで、ポスターの掲示やパンフレットの配布などが行われたため、記憶にあるという方も多と思われる。

今までに行われた社会実験の結果を踏まえていくつかの点に変更が加えられた。

・**無料から有料へ**…1回利用は30分100円(以降30分毎150円課金)/1ヶ月利用は1,000円(30分以降は30分毎に150円課金)という形に変更された。高松などで行われている交通系ICカードを利用した決済ではなく、クレジットカードでの決済しか選べず、利用者を大きく限定する形となってしまった。

平成23年11月1日からは価格改定が行われ、延長料金が150円から100円に、1ヶ月利用の課金対象が30分以上から60分以上に変更されている。また、クレジットカード以外にも現金での決済が行えるように変更された。

・**リサイクル自転車から専用自転車へ**…過去2回の実験で使われていたリサイクル自転車からドイツ製の26インチの自転車に変更された。日本で市販されている一般的な自転車での最大サイズが21インチということを見ると、日本人の体型に合わないのでは？という疑問を持ったが、その予感的中。特に、女性や高齢者の利用者からの意見で、「サドルが高すぎる」というものがあったようだ。

・**24時間利用可能に**…例外のステーションも2カ所あるものの、24時間の利用が可能となった。

今回の実施への思い

今夏から開始されるコミュニティサイクルでは、県立図書館やJR岡山駅など17カ所にポートと呼ばれるステーションが設置される予定だ。利用時間は24時間、決済にはクレジットカードや現金に加え交通系ICカードが利用可能になるように、準備が進められている。自転車も専用自転車を用意するが、国産メーカーの標準的なモノになり、乗りやすさの向上などがはかれるようだ。

開始時期は7月下旬から8月上旬を予定。瀬戸内国際芸術祭の夏会期に間に合うか非常に微妙ではある。仮に間に合うのであれば、後樂園などへの移動手段として使ってもらい、自転車ならではの「ちょっとした寄り道」で、移動線にある商業施設への賑わいを創出できるのではないかと考えている。

循環バスのめぐりんの新路線が8月中旬から運行を開始するなど、中心市街の移動手段は大きく変わろうとしている。この機会に、駅から中心市街への交通アクセスについて、真剣に考えてみる必要があるのではないだろうか。

